

事例 3

多世代交流会を通じて居場所づくりとニーズキャッチ 【名栗園×飯能市社会福祉協議会】

取組概要

名栗園

- ・企画、運営、
広報

飯能市社協

- ・広報や運営の協力
・参加者やボランティア
のマッチング

ボランティア

- ・運営協力

多世代交流会



地域のニーズ把握・居場所づくり・顔の見える関係性づくり

●取組内容

総合相談センター名栗園の1階にあるふれあい交流室を活用し、名栗園と社協が協働して多世代交流会を開催しています。企画運営は主に名栗園が行い、社協は広報や運営で協力しています。また、地域のボランティアも協力してくれています。

平成30年8月に行った1回目では、「みんなで作って一緒に食べよう」をテーマに、じゃがいももちやフルーツポンチ等を作りました。また、薬局の管理栄養士を招き、食事に関する話をしてもらったコーナーも設けました。当日は、スタッフを含めて70名ほどの参加がありました。

その後、1回目を踏まえて改善を行い、第2回は「クリスマスケーキを作ろう」をテーマに12月に実施しました。



↑第2回多世代交流会で参加者が協力してハンドベルを演奏する様子

● きっかけ

施設周辺の地域は、お祭りを中心とした昔ながらのコミュニティがあるものの、近年はマンションも建設され、社協では、地域のつながりが希薄になりつつあると感じていました。また名栗園では、施設のふれあい交流室を活用して、高齢者に限らず地域で支援を必要とする方に向けた取組をできないかと考えていました。その一つとして「こども食堂」も考えていましたが、ニーズがどれだけあるか、限定された方に向けた取組になるのではという懸念もありました。

そこで名栗園が運営する地域包括支援センターと社協のコミュニティソーシャルワーカーによる連携会議の場で検討を重ねた結果、全ての世代の方が気軽に立ち寄ることができる地域の居場所づくりの第一歩として「多世代交流会」を開催することになりました。



↑連携会議の様子

● 苦労・工夫したところ

名栗園は高齢分野の施設を運営しているので、子育て世代とは関わりが薄いところがありました。そこで、社協から地域の親子向けイベントでのチラシ配布や、子育て支援を行う団体に声掛けを行うことで、地域の子育て世代にも参加してもらえる会にすることができました。

また、名栗園のレクリエーションが得意な職員が、子どもから高齢者まで楽しんでもらえる内容を考え、第2回には参加者みんなでハンドベルを演奏し、大変好評を得ました。

● 効果

法人 ・高齢者のための施設(法人)として認識されていたが、取組を通じて親しみを持ってもらえることで、子育て世代や若者でも立ち寄って良い施設と思ってもらえるきっかけになった。

法人 **社協** ・ダブルケアの相談等があり、地域の困りごとをキャッチすることができた。

地域 ・高齢者からは「出かけていく場所があるのありがたい」、子育て世代からは「大人の目がある中で安心して子どもを遊ばせることができる」といった声があった。



↑郷土かるたで遊ぶ参加者